珍事様済所

ヲ6
3143

序

さきに御中極濃彩ゼ[illegible]の西恵冊を
[illegible]西園[illegible]知豊の太雅[illegible]く
[illegible]知[illegible]西任[illegible]東[illegible]て[illegible]雅声
[illegible]今[illegible]東[illegible]行[illegible]して[illegible]町家
の[illegible]門[illegible]庵[illegible]青[illegible]
大[illegible]城[illegible]かりて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

自序

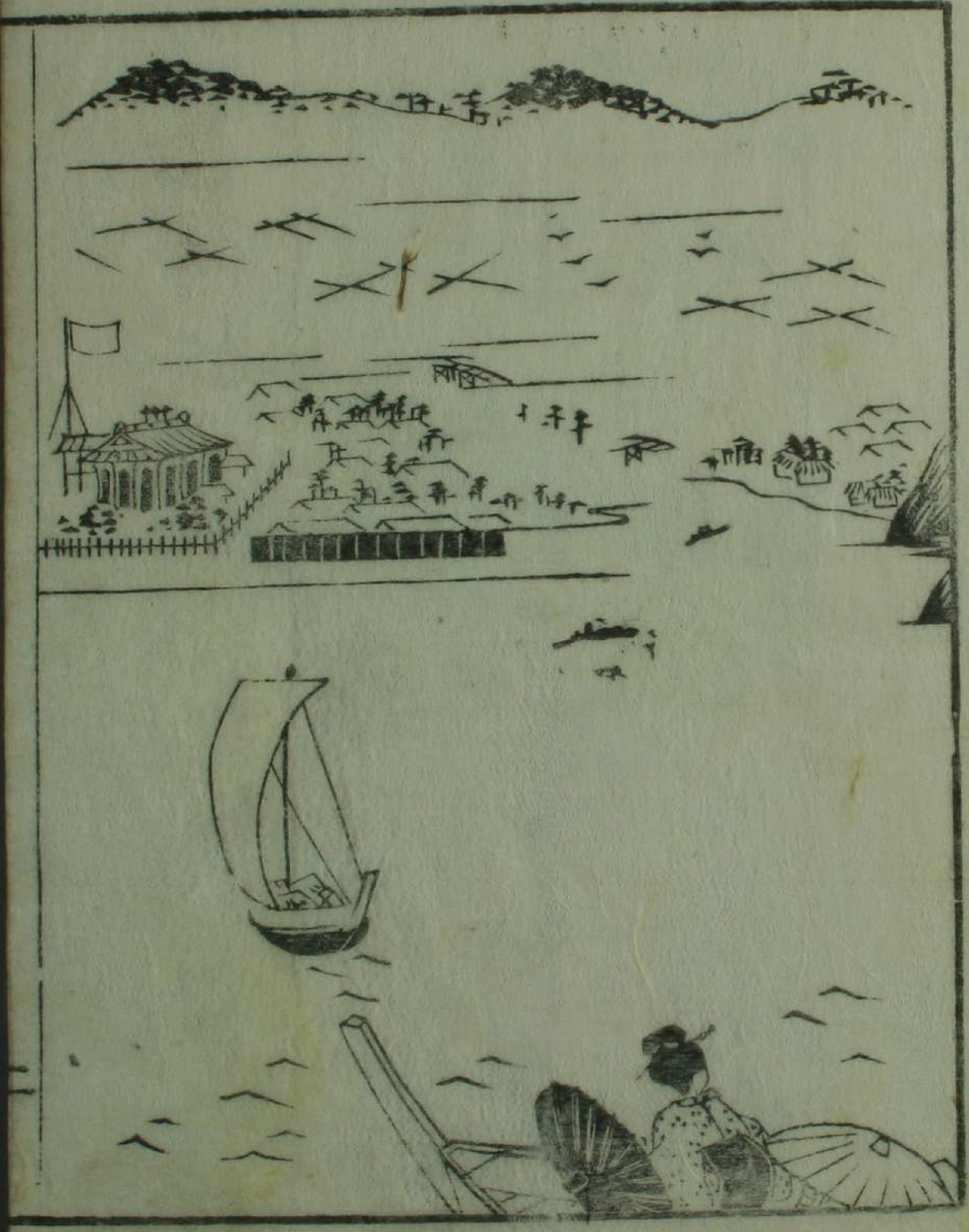
さきに梓せし横濱新話と名づけし愚冊は
にはかのことなれは遠國の幼童の土産にもと唯し
張諸華和なる子供之筆にていとまなく眼前
見聞其事のありまし綴志すして町家
の老婦艶志る商人の有も也淳しもあまり
大冊に成りしに流行しかしともしるした
小言に辞

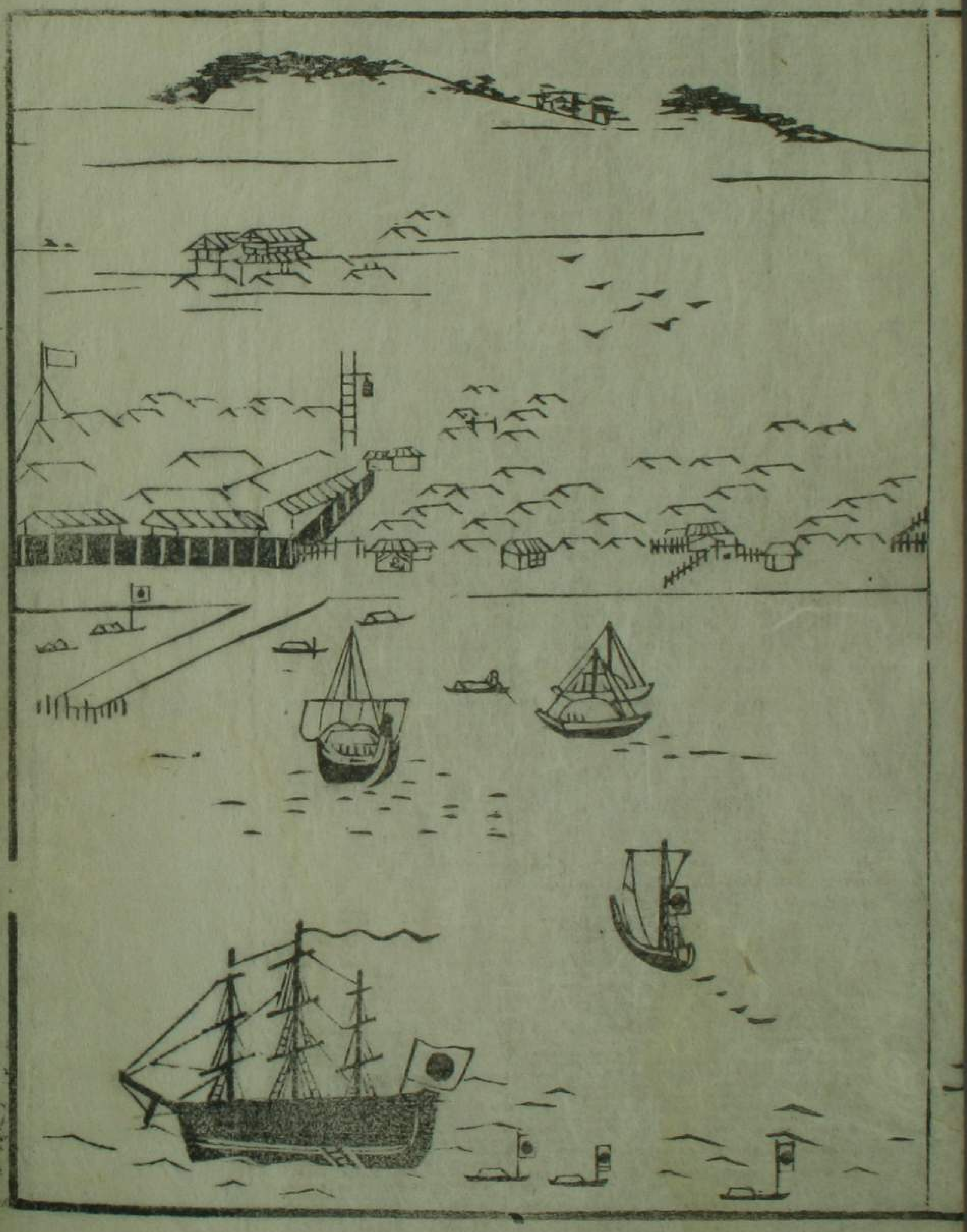
于時文久二戌とし
菊月吉辰

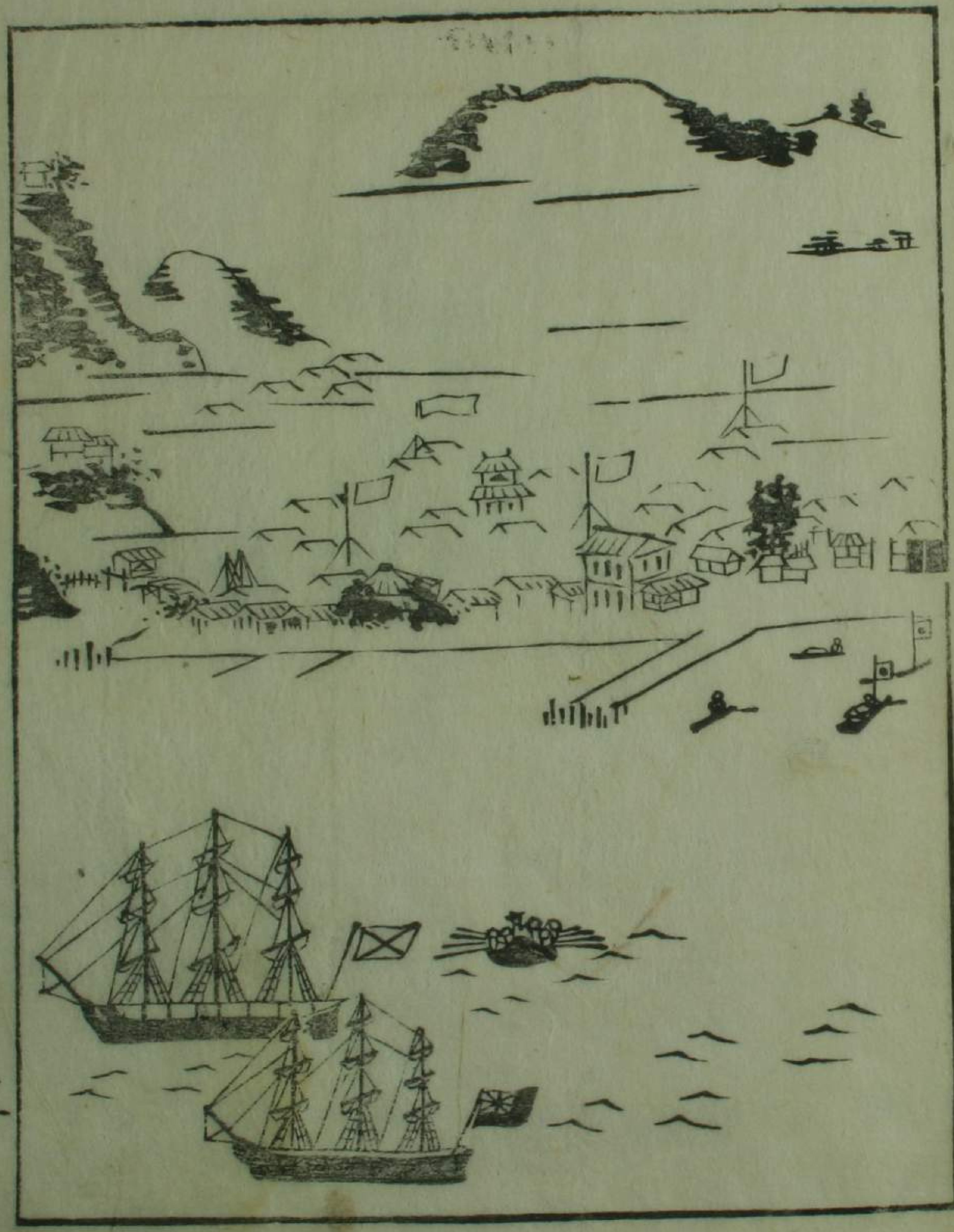
松仙

明治二十年 日 購求

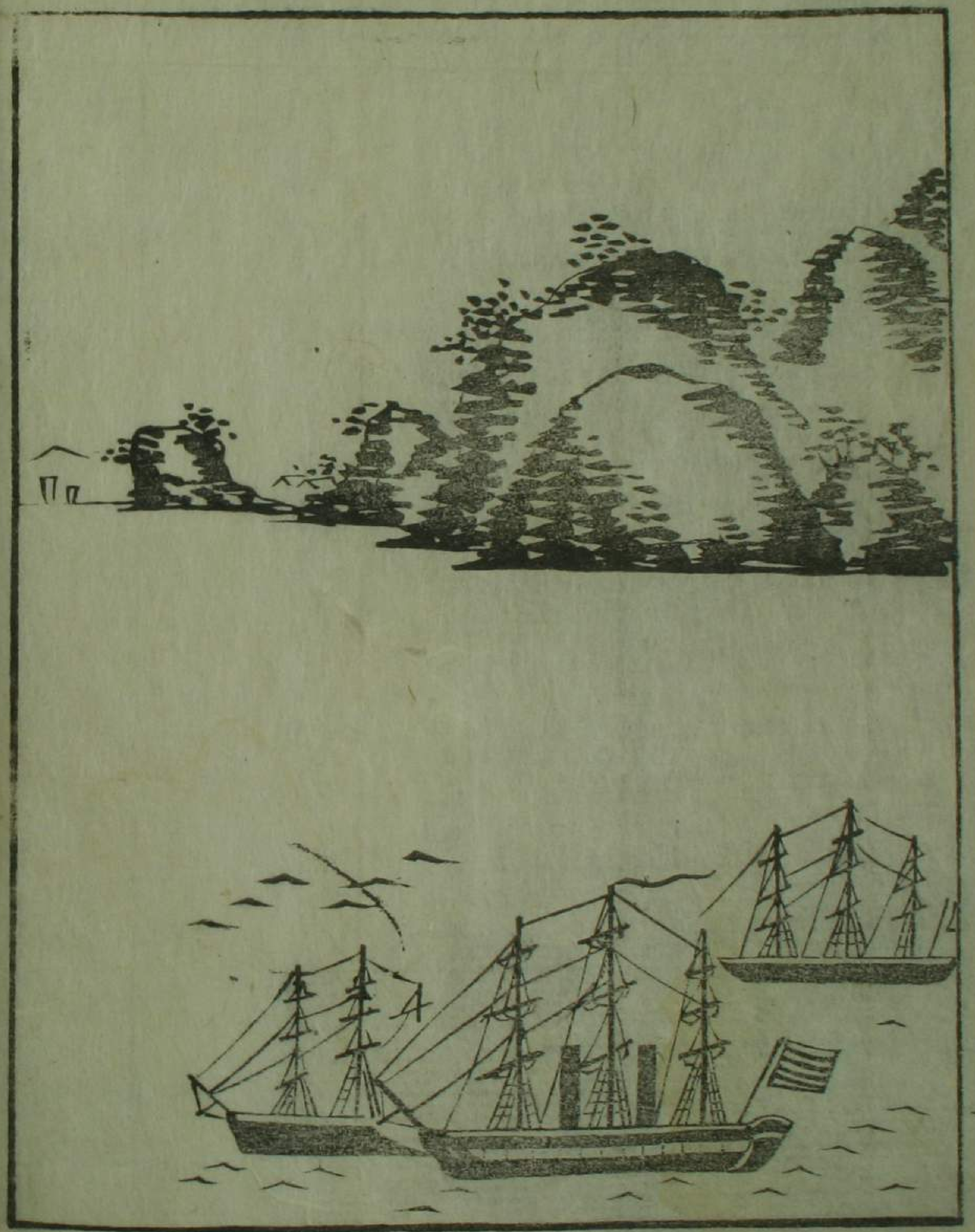
3143







凡世に名所旧跡勝景の地は多きと詩哥連俳の題に通りて名を
知られし所少なからず然るに爰に横濱と云ふは去る頃迄神奈川
宿の河岸より横濱本町五丁目への渡船にて海上廿余町も
隔たり纔に十軒ばかりの漁家の外には家居も見えず陸を巡り
て往来もなく淋しき所なりしが今は擬楽(?)割して見渡を絶景なる
く横濱の眺望よきをもて今は和蘭陀コンシユル館と
なる右の横濱の家々は盛んにして賑ひ横濱て在あり
神奈川宿より渡船にて其わたりの方舞天の松の茂みくれ
土蔵の立並ぶ横濱本町五丁目渡船場に着す



跡より先ハ御遠見之番所之角ハ水を動江平ノ九蔵居合有る生
まりて西ハ海辺長家あり漁師森あり大松あり此所 本陣茶
ありけ此辺の百姓家乗次とて公儀御用之場所ハ当宿の役人役所ニ而
て用事ニ付まらつく外の百姓家村人ニ而ハ此宿乗次ハ今ハ宮
小住を其後ハ下宿屋此役人角ハ世話役中村氏まり主成本波ニ橋御設
此所跡後 美しき利をもとの大身衆ケセッキとハ高館まり各国美人
館之ハ拾もハく 生まれしの此所にたりて風ニ吹すゞしく此村より十二天
の森あり是れより西方之縁中縁ハ長くして此ところ見事之 浪を
眺むき是ハ山のうち浦島寺より右の方ニ生麦村鶴見村市場村海の
ほうき遠く是より松原ハ瀬田村まで見事ハ網干田村まで ところどころ

まなり出て見れハ右の方ハ寛ちう来り寺しかハ長延寺 蘭のコンシユルその
先ハ此殿とて跡あり其昔之代 将軍様御旅館にして慈悲之
住持預 東照神君御宿ハ相殿なり庭ハ 神君様御手植の松を
御朱印之十石 他ニ此所ハ寺の百姓式と云ふ数代医師なり又
慶運寺 佛のコンシユル ホルトカルコンシユル 成仏寺 御朱印十五石
あり フラン 他此寺ニ住ゴブロ此寺ニ住 浄瀧寺 英国コンシユル 外ニボイロ
イギリス 普門寺 英国ワロスクロウ 甚行寺ニハ仏国のミニストル 宗興寺青木町ニを
神奈川宿役人会所あり是より美人宿御寺あり此宿役人呼見四ヶ
拾もされは此所月並とてるとのすくもなく茶屋旅籠屋料理屋
出猟まし打居海辺ニて人様別あるかくも程ニ見え 松平隠岐守様の台場

ハ漁師町濱邊ニ築出し おきあり 此所の名を源左衛門新田と云
紀州家よりは陣屋ハ青木町のうしろにあり 又此所ハ同町
の上にあるさき權現山にあるあり 此所に昔宿名代の[illegible]の甲せん置ん
名にあり 御所ハ庄内の名毘沙門 又次 宮の河岸は寺て
洲崎乃神社にして実ニ高きは緑あり 本覺寺ハ亜米利加の
コンシエル名ハテレルと云 娘二人 婢二人あり 浄瀧寺ハ英吉
中ハ若青木則語の陣屋終りて法晴陽光元吉大和尚の御
情あり 実に尊ぶに足る者あり
菊翁庵
本町しや苑の堤のハ川に浴
杖伯
後ニ云 去る安政六年中 鬼門の方より鬼火一度に出し来り

江戸ハ三国海ある フルコス コンシエル 仏蘭西国ミニストル名ハペリクルと云 同所に泉あるよハ
同町通英友麻布善福寺ハ亜米利加ミニストル 高輪東禅寺ハ英吉利ミニストル
役名アドミラルと申 軍艦六十五艘の船大将と云 名あるへし おがう
る像此つ来へ出しを寺ハ仏殿に麻布をかまひ三かひやうする 甲子浅
集先名さしの者のしこ書籍を編せん 名んやくに八牛の乳を飲
店穀ボットルにて牛乳を喰ひ其家毎に食とるゝ事く小さきにて
國もんゝ牛の前蘭行り乳を請る後ち乳を焼酎るやうにて吞喜ハ
キヤマンの徳利に入井戸の中に浸しおきあり 産をして生まる子供の為に
てあるやく夜あくるならば此蘭ゟ其国牛の乳にて吞せおやのちのよ
着なり 子供の名つる事母子ともに乗行の為にし太き成木の之人

より網に総をかけ其総のことに志つる事久しうなりし其総を力一ぱいに引
あげて又力一ぱいに向へつくゆる事六月つゝも花わかちて行ざるなり
のおもく渦がふすきがる是引鰹古なり「鳥に家取との事にて扱ふるね
痛なり「或美人は何事にあれど悪み去りども答ず唯く判なる
髪のこと鄭らく背一紙を巻ひ捨たる紙なし何とも今市の切く
男女とも下常なりし髪を結いたる男女とも搾の如し採世んざし
なし香の拂根とくは本来の苑るとく冠物のことさんなり「或説
にても髪は人皇四十代天武天皇白鳳十年始めて髪を結ぶこれより
美人の如くと是今年とに子再四十年とは成なり「何色の寺にても花の如
なり「将軍塚総権現は京都の大権現也し庄の搾は揺繪合

子年の春を八日本橋通壱丁目に新堂の舞台網かう搾菓の流は此池
あさんなり

櫻さし舞々十世り海しきたれ　仝

此菜の湯池壱町湯所は婦湯の義は万病の妙薬あして寿代の名
新さよりく宮夜に志す人なり「基町料理茶屋とは松本屋下田屋
とらやえ海屋其家よ
清水は天満宮何り其大日堂蟷磨堂は庄く「抑此之流は光着
此池の泡師の元祖あみに織まじを見る事を流家より雷除の中富
出したりて昔より此流は霊の落る事を気たれば雷甚清水の名所
なり

玉川掛から神奈川宿へ行道なりは海辺を眺めたる雅なる宿のとこちやう東
の本陣ハ何も見晴し能き景なり

ちりてやうちよふ枕川寄る　仝

神奈川宿の前山上に川村並又は御遠見の清正公社有り此所より見
渡せば宿中は此辺の海眺の中にして又権現の見晴らしあり「かりて程ヶ谷
と云ふかし往来の川也これるハ台町寺之見より壱丁程行き左り
「まづ見ハ横浜への新道なり「横浜ハ坂之下の茂葉生村なり
「横浜新道へ出づるハ元ハ海岸で皆かぢ町屋新田新田之時ハ松原也
まて持ちあり小松の茂りより宿屋の程ハ何もかくもむらがりて歌
人の心もうつるなり「さるかの富士見ゆハ駿河富士山より見ゆる移丈

の如く箱根あたりまで遠望して見渡しその絶景なるを称美ことのべつ
たし是より「石清水宮門ありて此所の間に二ツ橋あり新田為橋平沼橋
なぞと橋という小堀宮門前ハ此市中荒法寺長屋之支度同所法寺宅なり
此所より石和泉と云ふ根岸坂より高き所に見ゆるハ法目寺様法在家に法在と
云ふ所は市中荒法寺長屋なる前の法寺宅ハ目んたる之此所の名をソリメと云ふ
往来の左右ハ重役荒の法在家之かしら所ハ坂上迄ハ程ヶ谷の「追分石あり此
角ハ保土村と云ふ料理屋あり向ふ川べと云ふちごやなる是なつかり
て本陣へ七町程かしこ茂右るの方にハ仕置場あり「梅川なぞより
かし先ニ川は庄次　御奉行様ハ本陣之前「元より神奈川方武
術藝達之士ある其所は役所にして立るの女重役荒の内にて術て齋

たるは仁は師範控さまと云ふは棧里なくは棲は産坐は中島世孫次
名田氏らは和泉は中島流は是座あり世孫次郎氏和田氏之支より小坂
八聖光坂は見流祈くは広く銀え童役流は寺敷は広く美大聖院と
中寺より変る津の外見えるうしとき秋ちる是丁程行往来の中小
橋の大赤木あり摩利支天あり津え着きより神より宮え
強会庭長寺の宿院林光寺と中寺より深き所やといふうるさや
わり往還の湯屋より湯流といふ酒屋ありけり銀る国へ流は往還
育しは右へし方へ河岸は勘定方は座敷は広く面和は国　酒井
雅楽頭様高田領高藤は陳屋は広く其の外神宗門方は役處
諸は広く通の方え三浦屋国見屋廣瀬屋右ハ根岸藤之丞の裏え是

州中田より橋し本ゝ稲荷神社紀粛ん方とえ子神の社あり銀
き中島流は是座あり粘き若きの浜辺ハ野毛浦とて浜名を採る浦
百姓多くハ麦を造るより蛤海苔の名物津え正月は広く
篤く潮や風のまさらや海苔の味　仝
往来え野毛橋とくよ小福湯屋といふ其先こそやより向川岸へ下がりて
勘右衛門といふうそうやうけ　いふうなきハ柳田本店とてうなぎ蒲焼の
その名なり其首ハうなぎ其丸の候まで串ふさし醤油にて味噌をせ
きぬ皇つけて焼けりし蒲の如くなる故蒲焼といふ名付けしとろん
並し前の方吉田新田清正え右神縁は豊より南に宮あり人え名々勘之丞
七右衛門見より通の方吉田町といふ吉田橋より右を見渡せハ吉田乃

浮をりて夏ハ蛍津ミ寿し

世の中はかしかしいさゝ野みちかな　仝

色ハ眉鴨青鳥ミ鶯のはしまし鶴かみしかしとんとんふりかせんとう

「ハ海の塩さわらハ港濱の廓ニして廣ハ家毎ミわうりを娑まし給ふ哉

当中ミさくねらば中ゐおもうふ不見世ハ岩亀楼ニて東人和人の二

楼に行ハ通る廣大なり花魁部屋亦たのりの数あるとしゆゑ

先ハお職并部計りなくを見るに

岩亀楼ニて
清又 喜遊抱

岩園

花廊

新岩亀楼若三清抱

相の浦

岩井

亀菊

岩の浦

濱の井

金浦楼清右衛門抱

湊濤

小車

岡本楼安五郎抱

若竹

清乙

岩井楼清又
安五郎抱

人丸

いさの井

富士見楼吉次郎抱

濱の松

紅葉

金石楼徳次郎抱

庵吉

金之

出世楼金吾抱
住の井
出濱

保橋楼松の抱
き川菜
春人

い世楼粂吉抱
大門
重浦

泉橋楼惣兵衛抱
思ゝ葉
若人

新やしき松楼
平右衛門抱
代門
義代花

玉川楼勘兵衛抱
錦糸
花園

甲子楼久七抱
紅梅
菊の井

岩里楼由蔵抱
政子
花瀧川

続て下の新町並之

茶長屋下向見世

田浦屋新右衛門抱
松ヶ枝

伊勢屋喜左衛門抱
い世浦

大和屋久三郎抱
粂門

武蔵屋むめ抱
梅範

津ゝや喜左衛門抱
青琴

三浦屋富吉抱
花代露

同長屋之記

摂州屋熊次郎抱
小春

播磨屋嘉兵衛抱
濱路

佐渡屋徳之丞抱
小ミち

若菜屋徳之助抱
春人

播本屋千太郎抱
吉の井

高瀬屋清吉抱
若花

井筒屋新助抱
葉山

下総屋勇吉抱
福山

青本屋長兵衛抱
小櫻

井筒屋幸三郎抱
瀧川

総〆拾六軒あり

富本長屋

金子屋宗兵衛抱
相深

三河屋順蔵抱
紅梅

金子三河屋新六抱
葉山

岩い深屋吉蔵抱
金京

仮し書

春吉　熊八吉

宗吉　お吉

大和屋佐八郎抱
花星

立花屋音次郎抱
立花

新岩紙屋抱
瀧川

誂之書

菊吉　幸次郎

政吉

寿長屋

田中屋□□抱
瀧の井

米沢屋十右衛門抱
小雛

冨川屋文左衛門抱
千菊

緑屋喜之助抱
紅葉

松本屋庄之助抱
初きく

白木屋藤吉抱
若菜

廣喜屋喜右衛門抱
錦京

沢口屋七郎兵衛抱
こゝの里

上州屋長兵衛抱
うつ木

小倉屋長右衛門抱
小倉里

石橋屋長兵衛抱
園里

壽屋新右衛門抱
小櫻

長松屋平兵衛抱
標尾

[illegible]

一 西華長屋

新壽屋和三郎抱
住の井

緑屋
長兵衛
菊衣
瀧吉
友吉

小林屋庄兵衛抱
小菊

宮崎屋喜兵衛抱
喜花

岩花屋源八抱 清川

浮世屋太江門抱 菊寿

佐野屋清兵衛抱 桜木

津の国や金右衛門抱 小松

額以三之助抱 金浪

若屋源兵衛抱 千年

廣田や茂兵衛抱 百代

松葉屋三郎右衛門抱 小万

井筒屋藤四郎抱 小千代

大坂や与兵衛抱 藤きく

廣瀬屋金八抱 照花

游一家 徳次郎

踊振之新吉

千三郎

兼吉

寅長

福松

末廣長屋

新三河屋清右衛門抱 勝山

江戸屋源兵衛抱 小千代

新吉松屋清右衛門抱 みとり木

長崎屋三之助抱 小鶴

隆福屋長兵衛抱 梅木

宗村屋十助抱 小松井

有田屋茂兵衛抱 花園

福田屋仁兵衛抱 福人

上

松葉屋半左衛門抱
松ヶ枝
[illegible]

長尾屋[illegible]
武[illegible]
常[illegible]
[illegible]

[illegible]
大[illegible]
[illegible]

[illegible]世話人
[illegible]

[illegible]大門口道ハ中の町なり四季折々の花あり夏ハ桜[illegible]
[illegible]菖蒲秋ハ萩[illegible]
たくまし[illegible]

此中の町のつきあたり小金[illegible]の社あり
あかさかや桜ハいつの代かうへそめし
これさへ[illegible]
[illegible]
[illegible]

男女[illegible]の結
[illegible]抱 松
[illegible]抱 つる
[illegible]抱 か
[illegible]抱 て
[illegible]抱 ま
[illegible]抱 こ

松 酒
[illegible]
見[illegible]
[illegible]抱
[illegible]抱
[illegible]抱
[illegible]

いせや抱
米吉

桐屋抱
千代

花之

菱屋抱
京百

京乃

錦吉

粂八

惠八

男の部
惣合六六人

虎蔵

長八

惣合
三十弐人

和歌八

泉八

三国守
要補

同惣合

梅屋抱
小三

田中屋抱
こさく次

きの国や抱
小ぎん

新岩菱抱
小三子

新菱屋抱
小てう

久かん浪八
まつかん丁あり

會守
要三清

同惣合

源助

清三清

金三清

新吉

吉三清

同所出方

紫次郎

政次郎

徳次郎

政五郎

金次郎

安次郎

亦之助

利三郎

周作

下役

藤吉

定吉

紙屋浮世
新七

相模屋
新

三浦屋
幸次郎

上州屋
粂吉

酒屋渡世
成田屋 代平
津屋 茂七
石や 吉清
茶屋 徳右衛門
喜の和屋 上林
三河屋 清蔵
大家渡世 源八
揚屋橋
菱屋 新助

湯屋渡世
岩の湯 辰五郎
髪結床 淺吉
廓人入
菱屋 新助
大門番合
富次郎
市五郎
金次郎
文吉

三十三

追加
女藝者の部
金不楼抱 喜吉
泉楼楼抱 てる
新岩楼抱 小万
吉村屋抱 ゑつ
八幡屋抱 たま吉
いせや 小六
きのえや抱 大吉
岩住屋抱 小つ

仲の町
茶屋の部
むら田
玉寿 吉田屋
若いせ屋
新之の

大門外
茶屋の部
中村屋
菱屋
長五屋
尾川屋
もしほ
岩ちし
大和屋
丸屋
稲葉屋
田中子
岩いつ
松坂屋
茶屋 文吉

市中出店の記

一弁天通三丁目勧浜新と申菓子屋ハ長崎の出店ニてパンの名代
横浜名物なり 招牌に其名あり

一同五丁目蓮杖斎と申ス画師ハ英国画伯の写真鏡油画仕候

一洲干町東屋善八ハ料理人の精手ニ御座候

一江戸出店ニ本町四丁目角横屋様之御支配人忠三郎
英人俵和大妻通ニ御座候

右ハ女郎元浜ニ而きとも程の日里異人へ出るなり やわん女郎ハ別ニあるなり
異人見世ニ年ニ入出ハ遊女ヘ連出し一夜揚銭三枚なり 但日本人ニて出る
橋への割合銘ちんまて揚切なり 其外遊女ハ夜明け迄たり町ニ出る
女もあり 太田町ハ中村と云茶屋と蛭屋と云也 やたら地し宴ハ 橋あり
見晴り橋と云茶屋商人家続く吉田町五丁目弁天通のつき当りニ
流くるなり 此右の方より見えの見える一面ニよし芦原の海ニ而て老
八幡様あり

町しましき 蛙のなくやよしきのね　仝

吉田橋斉橋所より続ハ入船町なりつき当りハ㊅の紫綬床あり右へ曲りて
の通りハ吉田町一丁目なり突当り吉田屋源左衛門ハ当所ニ而窓港いせんよりこれ新を一流き

ゆゑ有事なりける時にて名を残せし吉田町八丁堀支配に狩美人鏡兵衛
等なりき一丁目に住ミ絶ざるハ光彦慈彦なり二河角に古巌といふ湯屋ありて美
味なるといふ茶屋あり名代のそばやありけり二丁目に 佐野屋といふ料理仕出し 金婦ら茶漬ありけり六丁目に
吉田屋新蔵の金比羅社ありいつミの湯屋あり揚弓場ありけり七丁目にすし
湯あり角の紀伊国屋と云ふ料理ありて實に御苑の角力場地面弁償人を
山西久兵衛なりけり清水表町ハ香蔵大史眞美人なりけりて茶店兄世「キ所之
日本八丁目田舎庵といふ料理屋あり吉田屋平次郎松本屋なりけり實に蓮光寺と
いふちいさき利源左衛門庭之の一ツ家といふ角に美人のせんたくやありけり「けいつきて角
見えハ長川村といふ今の世に百八十七百坪程あの地なりけりいつきて美人宮亀發
ありけるに今ではなる處二拾間なりけり中ハ高く九尺立處二尺高きまの様く虎木き

十二行ってありむ中通り八二ある茶のあたりなり箱ハ外にて庭のおもてまえるなり
是らハ五六の石垣なり「ごくやうなる光をむして風雅ならぬ事なし「外に美人の食料
牛屋亦あるなり先つ掘を為ぶ美人なるさい山本にて牛を殺しておく殺し首を切
血綺麗をとり皮をむき大きなる切ぶ小てはりし「わらるゝを血を走るる
船池橋に一本堤も出すなる縁の下に究竟ありてと夫に入るゝなる「花の金を
きそはありつゝぬてがめし「杉文左衛門美人飯出来之「吉田町壱丁目横に
而ろ新天の社あり「掃除枝山本多夫の旧縁ハ弘法大師の彫刻にて元ハ豆州
大松の枝に結座すりしより新源私記にハ山本へ勧請ありしなりと是に記せん
ありける而て暮く縁起ありて美人の様有る事なれハ余ハ略を此に有さしき
続なりき山繁右の角に「月庵ハ料理屋幸様といふ風雅なる料理茶屋あり

瀬戸の朝なりける四つ市まで瀬戸へ入る書は津支口まで先に絶京の
名横なり

さてしさや様まで名か瀬戸しら　仝

むかふも角屋といふ料理茶屋なり花代の漬あし元祖登張床わり勝床と云
横町小松や名なりの通り汐屋と瀬戸町なり　丸本屋ハ絆酒やとて今平糀 松なり大工派名主清蔵の德会所
田といふ大通へ出く目方其名なりのちこやハ福井屋津主清而ハ玄須屋清主清玄硯人
伝主清書込なり屋の角ハ車屋といふ絵草紙屋なり　升天通りも五丁ありたのとり
つきハつづやといふ花代のめしやわり紙付屋わらわめ見せ池見せ旦那同居なるかふ
角屋といふ酒屋わり横丁之前やといふ絹屋わりて行通　大村と言ふハや 宇治の里拜野や　わり紙
京屋彙込なり本店ハ鉄元まで中ん結屋とて大家なり定て御厨屋わり

植本やハあら細能　久揚屋久七生薬やなりのまんの加く云て鳴林黄街
近江や万名七兵衛老賣込　丸若屋ハ大さ西　吉村や素入込
次屋庵物店なり　靡清屋といふ挂花屋わり　福井やも賣込けり
なり仝京所次屋生系の大賣込なり又のまへん福井とかく大小来なる大安也
庵物なり大経師あて本久七運上取ニ用人並店藤河屋和人美人のなる真屋
わりせきや薬賣込ふ賣人鴨井屋久七看系名室庵物見世なり振さ太花
わり福いつこ庵物店彦屋名安屋賣込なり福本屋大川屋と賣込なり
橋屋瀬戸物庵物店名井屋庵大納言織物見せなり大坂屋紙の大賣込なり
三春なりといふ茶店茶屋わり小ぬ肩近か時計師人形横丁百草の茶湯
わり本さたさせく運上取御用挑灯屋なり

夏の夜や門ゆく人を知まつる　仝

此外美玉秋田の孫兵衛世代様目をおとろへも徒然あり〔あつまる〕は五丁目自身
番向の角に大和屋といふ薬種店あり清水亭寿あり往き当りは「書肆尾上藤
兵衛西尻に浅草清寿堂又其先一番呉人錦といふ店に「絵草紙」は廣小路にて名高
くも家康目世のそきかくりて手本豆蔵なとひ店も浅草文殊集の本あり
「蓑を衣紋坂とよぶたるく坂あり是廓の入口にて三丁ほとりやとよぶ生薬屋
あり又谷とよぶ古湯屋亭の湯といふ薬湯あり座敷屋といふうかさや雑門とよぶ
料理屋あり 柳川もあり 「廣小路より左へ曲るは町々に行運上所役止場の方に出るなり
本をくゆる無美の林の表通りは本丁二丁目なり中屋とよぶ陸田屋なやといふ藩
閑居あり美少湯りの香なくりの一見世物の名屋あり名香関屋名香関屋
天廣屋業助角に出役人様方の蔵なり〔繰〕まちまる大通りも三丁目より

五丁目まで行き角は江金御用三井ちやむかふは呉服や世話人服にて茶巻屋細工々
和物庵抱え世るなり万屋を江屋あり二丁目には大坂屋といふ呉服又世あり小箱
屋は重吉店衆兵衛太宰治也又呉服店の芳本屋あり漆と物店は海屋安
と物中店金を済すなり待物金物店伊勢屋源兵衛あり三丁目もいろいろの見世あり
四丁目行くと玉沢漆店書人好の物店あり
ねぶりやえ気にひとつのおもひ出まつる　全

黒江や
美濃屋　是は日本橋の出店なり五丁目行き側沼ぬの物問屋津清屋なり町方五
若屋肥前屋小物大坂屋也　⑪　中屋や　宇多屋　下総屋あり　桜屋源七大八百屋上田屋　紅屋あり
此外大家の前とくは美物和物店抱ゑ又金銀米でる帽珊瑚樹などもちては世
手数をつくし庵太郎世はいさぎよく代戦かくる数に勝えあるもあそくく

かゝるしくみなるも実に広大なる商人ならでハ叶ふまじ百万余の金満あり
御本町会所出店ハ角ハ鉄物屋といふ豪邸あり尾張屋といふ酒問屋有り是より「弁天通」
新らしき当所ニ交易アメリカ人名ペルリの時通せる場所を定めて取極めより
最初下田港ニて交易なし漸中相始る其の時ハ洋銀一枚三分通用なり
安政六未年正月中当横浜ニて交易相始る然るに洋銀二分通用ニ相成り
此亜墨利加国の内洋銀出来所ハサンセンメキスエウと申所なり此時の

御老中様ハ
太田道醇様
間部下総守様
久世大和守様
内藤紀伊守様
脇坂中務大輔様

若年寄様ハ
安藤対馬守様
諏訪因幡守様
遠藤但馬守様
牧野遠江守様
酒井右京亮様

外国奉行様ハ
村垣淡路守様
堀織部正様
水野筑後守様
加藤壱岐守様

浦賀奉行様ハ
戸田伊豆守様
井沢美作守様

「横浜ハ諸商町ニて第一の大家といふ大黒屋といふあり ごへい八百正といふハ
料理茶屋大坂屋ハめしやなり 角ハ横浜出方役所ハなり 吉田屋といふ異
人家守金右衛門あり 此吉田屋居宅異人番傳定質人なり 此横丁ニ通同所
出役宅又役所有り人足傳馬所蔵役所なり「是より先ハの」ぞ

美人鏡ある町角に美人の髪結床有り是に三十五歳女九八ぢまで柱床
ありて店先くの美女すたれをろして物思ひし床あり是八八宿に撤額あり
是は人物に有くいまも女のたてまつる処ありて柱町中にて女の揚屋
ありて宿ともおとらぬある処二ありて是は法の床並の如くある角に宛
ありて天柱の長屋付中に赤町二ヶ所田町二ヶ所ありて六尺許の柱ありて町を
つき月次の町を他の町に出して宛へ流し揚まで参詣する「柱町は大
町三十二ありてそれくの本所までも筆紙に書わくさされぬそて尽くせん
「柱町天通りと本町通りの所に南仲通りあり二丁目に湯の湯屋あり二丁
目に入る町中茶道具ありて㊄京の茶屋あり所同店と云ふ茶屋
あり秋田源といふ子さやあり秋代川といふ大茶屋茶湯あり四丁目に食屋

といふ米屋茶道ある道具といふ古道具やなどありて角に金屋などといふ古道具やありて松
川屋といふ新ある所ありて「源七角の八五丁目にて古茶屋といふ料理屋あり
御食屋宿屋茶屋しるし源兵衛八丁堀出方まで「柱本町通りと海岸通りの角八丁
仲通りあり二丁目に田中屋又左衛門の居宅ありて二丁目 挿花御師 あり五丁 柱の源や
同町一番中茶の葉といふ茶屋あり川本宮田屋茂兵衛
茶屋の後に茶屋ありて「源七角に又運上所あり茶屋に役所あり海
茶屋中に旅籠屋ありて是には美人鏡に茶店あり茶屋に古田屋
源兵衛ありてもおのれ町々に茶屋あり城所若松の飛脚に茶屋に
五番中一同の長ひ銀の店まで「又は中ノ町本町三丁目つき当り源次兵衛
あり源兵衛茶屋長源の茶屋に浅草寺あり海岸通りに店

其わ御材木座所の諸商売と云業の事ニ而有りし二月ニ御覧の建所あらしと云先
西波止場ニ而新人参物出入所御改而有り東波止場ニ而新美人参物改の
御急所ニ而在ゆけ此先の新波止場も出来ある「是より先ハ向ふ続ニ美人鉄あり
右中ニ佛菜ヲ出して天王寺と云中利形の堂を建取枝の事ニ而有ん
ちらの稀ニて十文字の文柱あり「是則ちらつけ柱の始なり「此奇縁ニ而
前金ニて糸ニ織りし紋のごとし「糸ヽ綾ニ而ある事ニ而も見ぬ事故而
されむ天ニ生れたる事ゆる縁との額縁ありしのみなり「往昔名ジラ
一にと云世界ニ三人の抱る人と云ても後法ニてて事業所ヲ是ゆる不志て難
是より日本の大人の始めなり
五ヶ国にちらくる物語になりて候 仝

棉税所ニ而紋法の始ハ人皇三十代 欽明天皇十三年百済国より
始て紋縁ニ及び経論を奉る其皇法により是ハ名我宗の稲麻
を想て経論せバ是と蘇我の大臣稲目といふ人是を給て稲目に綿ひ
ね稲目大ニ喜び難波の紋縁を礼拝する是紋縁の始なる「今年ニ而
千二百八十七年に当る「寺の始ハ人皇三十代 欽明天皇十四年向原寺を
建紋縁を安置す守屋大臣向ひ此地を焼払紋縁を難波の堀井に捨つる
其ところ紋縁長光る是より「美人座寺の元の里ハ堀割新町あらき前
堀田端と西横堀に往中ニ岩戸橋東田橋石門橋あり東田橋の此のごとく
是ハ浅茅山仏光寺まで京に当る所縁なり「元ハ南村井と此在中前美人
鉄出来二月当座く榎し出ず「是より名をかへ京都と云ハ美人鉄を云かう

日のひふえありし夫より波止場運上所は御役所より本町弁天通太田町より
其の辛ふ見るごとし 向に見ゆる神奈川台程ヶ谷の鉄砲
くらき町港崎の廓の家風まで委しく見ゆるなり「又右の方には地
徳院の上宗かかいたりの方は港崎の廓にてその全盛を様ふのべくおもはハ
見なり「海の方ニハ西洋の船ハ入津し其て諸国三里四方沢目の前ニ
見渡し南部貨一の見物なり「南部彦の石碑は横浜の主就ニ勤役郎一家
の家をあるなり

一　南町政次ハ異人商ひ扱人是政家なり

涼しさハ森林のこころし白帆影　松栢

さら家の主を寸夜ある絶政四年未ノ十月又四月中同浄寺住持のもの月又たた其

高町年寄徳右衛門ハ其の徳ニ住民共家門わたりよし其ふさ異人の墓有
おりあそて大さ字三尺程の如ハ上ニ亦其の銘ひたく天ハ実物数されしヲロ
シヤ人の石碑之他是もあり付程の石あり其外アメリカ人フランス人
エキリス人南京人都合是は都合指一人の石碑ありつづけて石にて二間
飛わして先をとがらし餘の穂先の形ちなり大きさ凡そ八丈程なり絶
石の百の高さ大貫板ニ付けりはり付柱の形ちの色ふでえるなり「前日ゟ七ツ六
本の如し中ハ座を中くてなり付柱の如く頭を立中よりやハ娘の大鋏の
役なり「振ル金光院の住わり増徳院は其宗する間く美脇あり
先ハわりて之にし是なるり氏「此の之の方迄て美人鏡出来なし村人ハ在る
同村出貫村野毛出名をお投と不知なり「本牧あたりは十二天の森

社あり拝殿十二天の社八幡社七代地神五代を祭るといふ 社家ハ濱辺にて本の根
岩崩れたり浪にゆられて砂子ハ玉のごとく清らかなり 中にも常にさゝれ小石なきぞ
んつゝじ茂きにハ鳥ならでをとづれなく 情し(?)かるべし 夫より
「高家村 海にそひ村 根岸村あり 鶴崎といふ小村程あり 山田屋といふ小村程
塔屋あり 是より「根田村 三崎の分なる 金沢へ四里 富ゟ八里あり 合
知らる 浦賀へ八里なり「八王寺山にて 遠見(?)の為あり 右国役人様御詰
なり 異船の出入を見て 江戸へ注進するなり「実ハ第一の要害の地にて 前ハかたる
青海なり「入海にハ異船和舟さし濁せて 行きかふ目を驚す大船なり「中は
異国より来る情勢九と申ハ英国女王の持船とかや 長サ三十二間中八間
大筒捨六挺あり 也(?)てハ異船こゝろにゆる(?)す事ならずして 悪事なすなりといふ

こゝにて様子をしるし 其英吸(?)もて筆紙にて書かきし「浦賀奉行
御台場へ献上あり「船文大元丸と申ハ 長三十三間中十間にて三階造り 下ハ米粮薪をいれ 中ハ人入場なり 二階の其
中は武器のらくらある 右左にて武器の評定く其あり 其奥の居家也
広大なり 積其の方ハ広さ板の間なり 上にハ大筒三十八挺据 中にハ十四挺
有り 余程は役人様ハ江軍艦方佐々木方 操武方 神奈川八百石 船頭ら三百
八十人程なり 是則異人ふてきなる者を打とる役のよし 頼御
軍艦大元丸ハ薩摩様にて交易にありて ん織出来よし 江
御台場へ法上網とある 大筒の義ハ豆州下田表にて 津浪の節 ヲロシヤ船
名の沖にて 大筒五十二挺 上網とある ヲロシヤ人ハ新船
にて小船を造り 余場なり「筒の大サ三抱半程あり 長サ四間あまり 造あり

実ニ目を驚る天大炮之「太太元九ハ万延元申年九月中南京人男女とも
殺合三百六十人程アメリカ洋銘山へ漂着しあて海中ニて難風ニあひ舟
を破り日本へ吹流されしも舟をつくるに中され舟は焼うちされ「神奈川方へ出
荒二人ツヽ出役出座当「揃税釈さて舟の帳ハ人皇十六代 應神天皇五年伊豆国
ニて作る舟を造る長サ十丈余ありて舟名ハ日金山の楠なり今年より千六百
十年ニなる「甚だ若ちいハ山へ登りて大戸ハ門へ流くしの此かちく山の程
よりござ次の舟を造りしは此の御金の舟をさしは今度仏蘭西国の
鬼ども異様の舟を造り長サ十二間巾二間竜木ハ是なるも鉄計りなる是を奈
薩摩舟ニ仕立外を赤白青三色ニぬりて鹿御我ニ用ひて栄さゐるなり
失の都より舟を申し「此舟ハ天皇より天保末年作天間ニて衣仕しるなり「蒸気

申年七月中エギリス国へ馬并人程様送りに此異人の云るにハ乞るんしの後
流金をとめる者ありるの手紙にあた六年行る異人ハ高潮ありて行をふたつ
行る者あるもの急になるを止る時ハ綱を引とか手の様に中に立出へ落る止るなり「天馬
東行る樽ニて大ハ車のやうなるを付九尺程のきよく流く行る二人乗
かくるのか帝門きる之乗るの西の高振子板をうごかし付て左右をみ
せたるに向斗り見せるなる一足より二足ハ出て乗る仕大道の音気のめし
「男女とも乗りなる程女も高くの上ていくさのはなこきまる之「舟に車付あるを
せきさせんとふ是ハ日本廣大むるもんりて手紙よのべつらし照らし「揃日本出て
るの始ハ人皇十六代 應神天皇十五年大和国櫃坂の地と百済国より
来る人 名アドキヲ司としてかいまに今年まで千六百十八年まなる「梅文

葛の葉ハ狐なり今ハ抹茶生ゑ宇治乎なり地ヒとよりは種出きはや世ニ之
わたてありし「建我家にて茶の始ハ人皇八十二代　後鳥羽院建久二年栄
西禅師入宋し帰朝の時茶の実三粒持来りて「梅の尾の明恵上人ニ送
りしを栂の尾ニ植給ふ又宇治ニ移して今ハ宇治より出る人口よろし
伝来しと「按呉服の始りハ人皇十六代　応神天皇十四年呉のくにより
人クレハ名アヤハ名とふ二人の女をたてまつらせ織しむふくさん今年まで千五
百七十二年になる也「呉服の人気いつの世もたえまなくありて大たんなり小なり
らんを見ひんこ其の数をいふべからざるものなり「土佐より九日本
の織人の貌見る此の振舞なり「むかしより是ハ代よき栄あるしと仰ちゆく
すくはく利然のことを極めを営ふ意て「いづまて大事ふまて実よなり

くたまでのうち之中於ゐ宮東前々人ウヰンリウトと申ハ高人なり男女の身
ぶりこのいろふて来りむる通人なり「むかし常の履物ふえ「呉服の礼しき
通行ても正夜衣て是様色て今様もるしづかくと女児の薄き行年を
出たし女ハ其の年へ二才の帯びを下げ其帯び結の着をかぐ色ふて志ま
とき夜よつくとるゑ「是を着れとふたかまへまをみきり合せ之刑ニん
まちれハ男女ともかにと見きるまゐ合よろり「花もん年女ハ胃の生ハ男なり
女きを衣枕る人たちよ是ものと亀角衣の縫ひわくしつゝるべし当時
ハ召たりぞ「其美人なまも数のかきもえんかや面のぬいしわひこゐらるし
まらひ良きとくるすし猶とハ人も春才孔彩しくきまいろうと雲ら
ビイドルろたとふるふあるし「美人上友級ニニストル々老中同じて抔く

いつも舞台のうしろ又ハ湯やの中へ入て見るやうにしたるハ大かたつまらぬもの也見て来る
べし「其一段ハ素人之注文也是を三丈位にしたるけれハ至極今様にて見ゆる
ものなり「主人咄咄申すのはしハ四つ目のだん先の方ハ部屋の前なり
ありしが其の二階又ハ其所の二階横へあるを其所より聞えし様なるへ
よりて人々より先へまはり出るに手をつき役者の顔の見ゆる人のあるもよし
きまりをつけて顔の出る処にもよろしく見えて其所にて
ありし者を見るハよろし「其間の方ハ主人方にうけぬ内ハたしかに見ゆ
見てみるへきよせの二階へ行てもめづらしく又段々なるとふ所々提灯の灯
をはふへきなる主人の先に立たるへし「素人の仕度をハビイトロ障子抔を
見る内にハ幕ハ方々に出しおきて高く「高き火の煙ハ桐の筒にて細く出る

見る内にハかしこまりむつかしき仕掛なり「是ハ角力の見物しの様なる趣向立つまし中
に定法之通り大ぜいの趣を造りし仕掛にて是ハうちハの如く大風の出る事妙也
あるいハビイドロ仕掛にて是より見える有りし座敷の様なる事よろし
其布をはりもうすし皆ねつかり柱立て仕掛にて其所へ是ハ座敷にて大きに
ハツホウ二枚も三枚も重ねて出すへし「其上のつるし白き麻織にて今日の二番会之
いつも擬城にて臺の上へ布を敷、ハン半紙の青物ハおくツてもよし
半の乳半の池にていつも池を用ゆる也薬をすし小刀一本かけ候のこがね
二枚の仕半も大切にして小刀をもて切るべし吟味之酒ハ銘々を出して其つもりにて「同
の青刻ふるし仕事の折ハ一日に二度づゝ表せるなり一枚張り造る「上宮本の事ハ
春ハ花の花余ハ其木の葉にて柱を包天井張にかけ置に抔して「何か重

「雪抵のごとく「径大きなる池を七八里の方一枚ツヽ氷にはるなり「是一萬の池をもちて時わざわざ行る男女ともうでを組足拍子に紙ようにて「すり出して合せておどるなり「唱物ころごろといふ「こきうト「せうト「七夏きト「琴と笙と一面にならるあいろあり「京六雪氷の上にて足踏といふすわり足八斜をかゞめるなりと舞ひ「当の様こゝ手すり金わり挽紀して鉾を浮きて五六百より七八百径高足を揺く乞るなり将途中にて少しなるもすわり途中より出て又左方へ向ふもあり足別より出てころばぬ術なり「夏ハ上衣ぬて　人　寒　夜ハ法く出て水をあびる人「其又経なく者人まくハ衣文透け合て歩行なり

異國時斗打鐘の数を知る事

左も是

晝					夜				
卯時六	四ツ	二下カン五ツ	六ツ半六ツ	七下カン七ツ	酉時六	四ツ	二下カン五ツ	六ツ半六ツ	七下カン七ツ
辰時五	八ツ	一下カン一ツ	五ツ半二ツ	七下カン三ツ	戌時五	八ツ	一下カン一ツ	五ツ半二ツ	七下カン三ツ
巳時四	四ツ	五下カン五ツ	四ツ半六ツ	七下カン七ツ	亥時四	四ツ	五下カン五ツ	四ツ半六ツ	七下カン七ツ
午時九	八ツ	一下カン一ツ	九ツ半二ツ	七下カン三ツ	子時九	八ツ	一下カン一ツ	九ツ半二ツ	七下カン三ツ
未時八	四ツ	五下カン五ツ	八ツ半六ツ	七下カン七ツ	丑時八	四ツ	五下カン五ツ	八ツ半六ツ	七下カン七ツ
申時七	八ツ	一下カン一ツ	七ツ半二ツ	七下カン三ツ	寅時七	八ツ	一下カン一ツ	七ツ半二ツ	七下カン三ツ

天宝八年より寛延より近年まで凡我家の天文二戊年六月十三日美濃の
天文六十二年八月二日出立と八日本の宿まで出日御家の宿月見る事まで
書しめぬものなり

筆捨の帆とぞ見れる春乃風　松伯

ましきや梶の音て浪帆掛松　仝

大船の旅かわらしく身見る　仝

河出かけまうら丸舟宿の字　仝

「本枝のえなる名勝との入海には美数和歌余多し　さて枝のえ多く漁舟小舟
八宮よりこぞたむろして「群来るかと見ゆるは漁舟なりまきあつまる
出帆のごとし「小魚の落を先がけて「とびこさおハ西南十方より起これ和歌

比筆捨の嶺渡り浪に日の丸の幟を押立出入の舟く往復。美人には時の小輝をとらす
ありし世本天元のわいさらかには大筏をくろしろを。往出わつ浦わり筆ていわり。色里お
見。鯨捕きは。鯨くの見るを大ちら老ゆめんの吾をかはらくだのうきうち。魚のそがみ。象の
様ひ。るの浮きさへ。浦出美く鶴きてわぐかる我形くは石見ぬわりさ原より「かゞ浦
めづらしき名なりて「紀文筆紙よりもおびかる紀事も浦山浦尾中宮「とびこびき
ぜひとも横濱は名内のかく釈子丸方丈書の新紙ものすし筆紙とる名
て帰るの横濱をうし筏をまつうし

金銀御取扱御用三井組
京都住居ニ付
三井八郎右衛門
同 三井源右衛門
勢州松坂住居
三井宗十郎
同 則右衛門
名代
當村仙次郎
御用取扱方名代
奥村久右衛門
同
津田鐵五郎

御運上所詰
定役 英保太郎
石渡彦吉郎
大坂御役所
御番所定役
道瀬義七郎
御国港場町々名主
本町壱丁目
六左衛門
同二丁目三丁目
徳兵衛
同四丁目五丁目
久次郎

町会所詰合
町年寄
前郡清兵衛
同
徳右衛門
惣年寄并添役
石井源左衛門
一丁目町役人
探蔵
新兵衛
二丁目町役人
忠右衛門
新兵衛
三丁目町役人
重兵衛
長蔵

四丁目町役人
源兵衛
文兵衛
五丁目町役人
兵助
茂三郎
町会所附役人
英助
三左衛門
猪之助
重助
巳之助
源兵衛
来吉郎
宇助
御運上所
嘉助
喜八
八

外国方
神奈川方御用達
河田屋宗平

堅町名主
孫三郎

同 年寄
孫右衛門

同 組頭
與右衛門

町役人
四郎兵衛

大坂町名主
庄右衛門

同
長兵衛

同 年寄
久右衛門

七郎左衛門

又右衛門

運送方
伊勢屋善四郎

村田屋與兵衛

菜倉屋源七郎

高徳屋宗兵衛

米倉屋某兵衛

石門屋又四郎

青木屋市左衛門

大井屋惣右衛門

金子屋藤次郎

正衛屋平吉

諸荷物生糸問屋
三文字屋又八

深沢専助

栗田町名主
源右衛門

同 組頭
光蔵

藍蔵

当湊町年寄
徳右衛門

石門
半右衛門

元町名主
四郎右衛門

組頭
又四郎

同
源五郎

同
沖右衛門

同
又右衛門

同

湊町
廓支建人

名主
依藤依右衛門

見習
雄之助

諸家同利御用達
經世屋某代
依兵衛

目利役
十兵衛

長次郎

出役所
茂兵衛

戸部役所
蓬莱

運上所
新八

澤田御用達
三井八郎右衛門

金銀御両替

金銀町番組
紀州屋小助

神奈川御役所
同会所詰合
名主 源左衛門
源右衛門
年寄 源十郎
年寄 又四郎
仁兵衛

日和張小役
小兵衛
吉右衛門
久太衛門
喜助

神奈川仮本陣
石井源左衛門
同青木町仮本陣
鈴木源五兵衛

御奉行所ゟ漕運上方
宰屋敷掃除方
青木町
源六
元横濱惣代
四郎右衛門
戸部町
勘右衛門

異國重役人之部

亜米利加役人
役名 メノシタ
名 ハルリス
小使役 竹次郎
別当 萬吉

同國役人
役名 コンシユル
名 カンス
小使役 久次郎
別当 金次郎

和蘭陀役人
役名 ミニストル
名 デベテン
小使役 條吉
別当 菜吉

同國役人
役名 コンシユル
名 ボスボクス
小使役 佐吉
別当 雲吉
妓 てう

英吉利役人
役名 ミニストル
名 子ールセン
小役人 文吉
別当 長吉

同國役人
役名 コンシユル
名 ゲビテンワイス
小役人 粂次郎
別当 友次郎
娘 たか

仏蘭西役人
役名 ミニストル
名 ベリコー
小役人 新助
別当 甚太

ホルトガル役人
役名 コンシユル
名 クラック
小役人 梅吉
別当 松五郎
娘 友川

外國人士官商人館女附并名前

一番 英國 ガハール
娘 はる
小役 半之添
別当 平蔵

二番 亜國 ホール
小役 添三郎
別当 喜蔵

三番 英 メンサール
小役 清助
別当 仙吉

四番 英 ベール
小役 常吉
別当 喜助

五番 亜 ホルトガル クラック
娘 たつ
小役 伊三助
別当 松五郎

六番 亜 ハッパ
娘 くゝ
小役 福松
別当 辰吉

同

七番 英 シトロン
娘 てつ
小役 喜八郎
別当 添蔵

八番 蘭 ハイフテン
小役 音次郎
別当 芳吉

同〃番 異人酒屋
書記 長吉

九番

拾番 佛 ブレット
小使 辰之丞
別当 熊吉

拾一番

拾二番 蘭 ストイト
小使 為次郎
別当 竹蔵

拾三番 亞 シメット
小使 清吉
別当 吉五郎

拾四番 英 アスブ子ル
小使 太三郎
別当 鉄五郎

拾五番

拾六番 英 マース
小使 勇吉郎
別当 市五郎

拾七番

拾八番

拾九番 英 ドーメン
小使 吉之助
別当 吉助

廿番 英 ミニストル
小使 常吉
別当 兼吉

廿一番 英士官 ガーハル
娘 てな
小使 長吉
別当 惣蔵

廿二番 右士官 蔵
[illegible] 角次郎

廿三番 英 ハエン
小使 仁作
別当 寅吉

廿四番

廿五番 蘭 ブラーン
娘 いせ
小使 辰蔵
別当 忠蔵

廿六番 蘭 ブラーン
馬屋
別当 徳蔵

廿七番

廿八番 英 ベーロ
娘 え当
小使 平吉
同 和助
別当 宗吉

廿九番 英 ベーロ蔵

卅番 佛 レイテルマン コンスタンス
娘 たま
孟川
小使 安次郎
別当 源七

同館士官
小使 銀次郎
別当 八五郎

卅一番 佛 役人 ミニストル
娘 ふく
小使 喜三郎
別当 源七

卅二番 英 ロレロ
小使 義三郎
別当 吉五郎

卅三番 亜 シメット蔵
番当 庄三湊

卅四番

卅五番

卅六番

卅七番 マキニモイ
娘 八重
小使 兼吉
別当 米吉

卅八番 英 シトロ蔵
番当 吉蔵

卅九番

四十番 亜 アイズロー
小使 米吉

四十一番 蘭 バタケイ
娘 冨野
小使 勇蔵
別当 銀吉

四拾二番 英 ヨン
娘 まと
小使 利助
別当 熊吉

四拾三番 蘭 ライス
娘 てう
小使 富蔵
別当 吉助

四拾四番 同 ス子ル
娘 志ま
小使 久蔵
別当 茶助

四拾五番 藏

四拾六番 藏

四拾七番 同

四拾八番 同

四拾九番 クロンボウ リヨウジ
小使 定吉

五十番 英 トテレル
娘 きく
小使 源之濤
別当 喜之濤

五十一番 英 メイテラント
小使 伊之助

五十二番 英 デイセム
娘 ゆう
小使 吉助
別当 會蔵

五十三番 英 サンジ
小使 甚吉
別当 喜三郎

五十四番

五十五番 英 マキトソン
小使 岩吉

五十六番 英 モハテイ 藏
別当 伊三郎

五十七番 亜 フレイマン
小使 斎吉

五十八番 英 マクワシン
小使 米之濤
別当 市五郎

五十九番 英 ロレロ 持
小使 三次郎

六拾番 佛 ブレッキマン
娘 こひし
小使 金之濤
別当 金次郎

六十一番 英ライス
娘 てう
小使 富蔵
同 清蔵
別当 吉助

六十二番

六十三番

六十四番

六十五番

六十六番

六十七番

六十八番 英コンシユル
娘 たり
小使 権次郎
別当 新助

六十九番

七拾番 蘭カブタイン
異人旅籠屋
娘 きん
小使 新七

七十一番 英ガルベル
小使 亦吉
別当 長三郎

七十二番 英フローベン ルライス
小使 利三治
別当 吉八

七十四番 英ユーース フレカツ
小使 源助

七十五番 英ジョージ
娘 きん
小使 定七

七十六番 英メソン
小使 浪市吉
別当 浪五郎

七十八番

七十九番 ロブシン ブラヲ
娘 とよ
娘 千とせる
小使 若助
別当 長吉
小使 猿松
別当 喜助

八十番 佛ジラール モニクル
天主堂異人寺
小使 菜治郎

八十一番 英クラヲ
娘 げん
小役 清吉
別当 民蔵

同館士官 英アブヒレン モンゴメリン
娘 えしま
小役 林蔵
同 喜三郎
別当 長吉

同館 佛アマニヤク
小役別当兼 傳八

同館 異人パン焼 フランキヨ
娘 なか
小役 嘉五郎

八十二番 亜セメンス 醫師
小役 勝次郎
別当 茂助

八十三番

八十四番

八十五番 英メコキリ
小役 磯吉
別当 榮助

八十七番 英ユーステン
娘 かよ
小役 六之助
別当 治助

八十八番

八十九番 佛ジヤクマン
小役 勇次

九十番 英フローベン ルライス 持

九十一番 英コンス ホリンス
小役 新三郎
別当 勝五郎

九十二番 佛ガチヨー
小役 常吉
別当 巌吉

九十三番 亜 英ロブシン ベーカ
小役 金蔵
別当 梅吉

九十四番 亜シタン
小役 今吉
別当 宗吉

九十五番 支那人 三四人住居
小役 嘉吉
同 吉八

九十六番

九十七番

九十八番

九十九番

百番

百一番

百二番

百三番

百四番

百五番

百六番

百七番 蘭 ナッセウ
少役 播磨
竹田 寅吉

百八番

百九番

百拾番 亜 コーブル
少役 泰一郎

文所播物〆东
英士官物置所

少役 君五郎

英 カブタイナン
少役 長之満

運上和蘭 亜 ミ、ルメン
少役 熊 表

表日和 亜 ホヲル
少役 静之助

運上所内
亜コンシユル役所
小役 清吉
英 カアル
小役 嘉蔵

弁天町中横丁
英 ロミウ
小役 茂五郎

弁天町中横丁
英 ワルス
娘 ゐ
小役 乙吉
別当 半蔵

同所
仏コンシユル役所
小役 亀三郎

同所蘭仲通
英コンシユル役所
小役 重次郎
同 伊三治

弁天町
亜 シヨヤ
小役 房吉
別当 熊吉

大田町八丁目坂中
仏 ウエルフエル
小役 政吉
別当 金八

弁天社際
蘭コンシユル
小役 栄吉
別当 久三治

埋立地 牛屋
英国船大工 コック
小役 竹次郎
大工職 和助

同所 牛屋
蘭舟大工 フライ
小役 長吉
大工職 幸三治

同町異人宿館
宿守

右西濱會所
詰合
業蔵
總次郎
播三郎
松五郎
与三治
久三治
金助
末七

御奉行様付
別当　播大右衛門

御運上所付
別当　源三郎

青木町会所
別当　金次郎

高島嘉右衛門
乙五清
源八
三五郎
三郎兵衛
長三郎

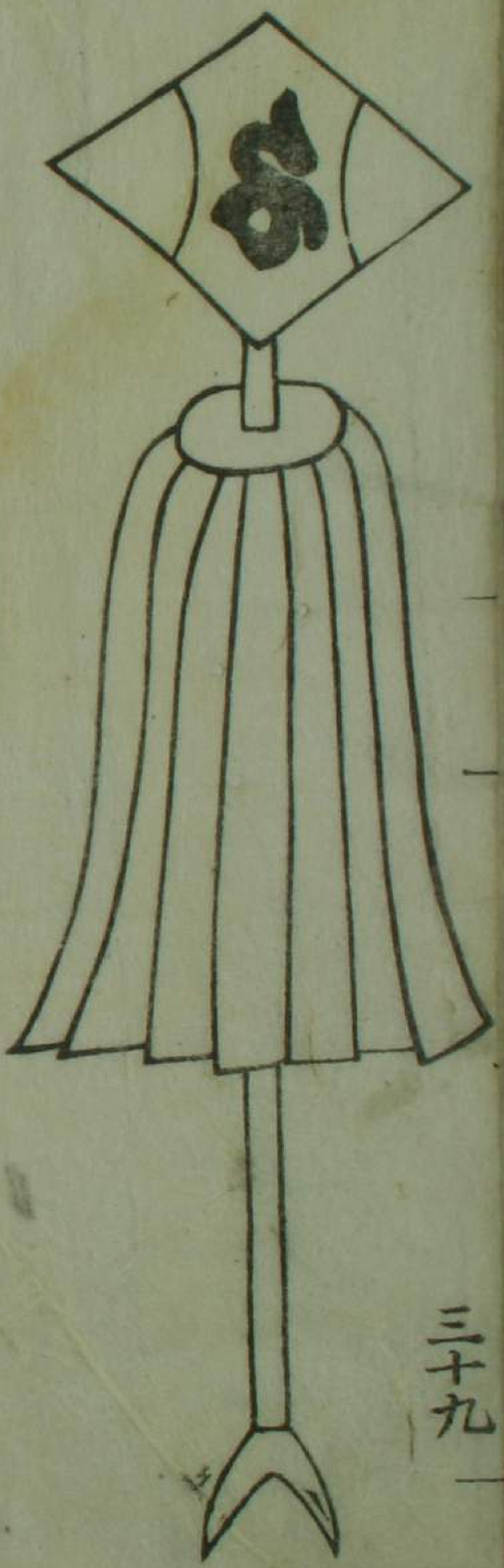
高嶋御用
黄清傳五郎

一番組
本組

取			取	
清次郎	太吉	長次郎	米次郎	政五郎

纏持		階子持
笠納	米三郎	岩次郎

二番組　よ組



頭取　政吉

同　繁蔵

世話番　勘六

万吉

由五郎

階子持

纏持　吉五郎

辰五郎

子吉郎

三番組　ヨ組

頭取　要蔵

世話番　兼次郎

纏持　傳次郎

階子持

銀次郎

沵仙

四番組
を組

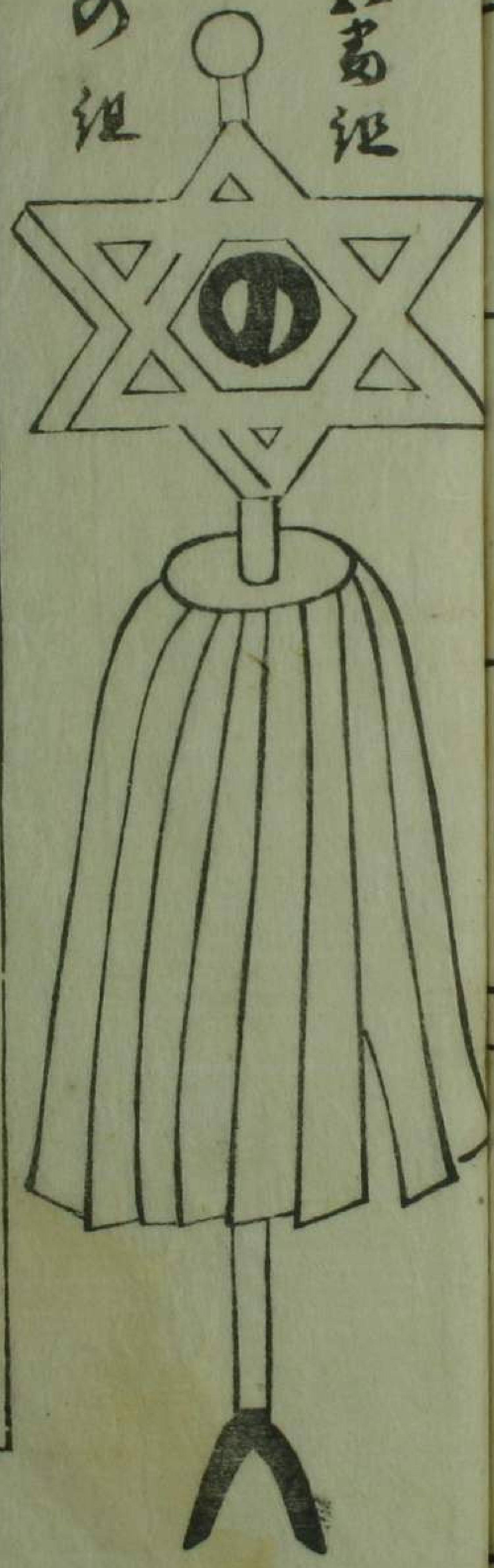
半吉
幸次郎
吉五郎

寅蔵
辰五郎
菜吉

文吉
弟吉
右ハ頭取八人ニて

道具世話方 熊次郎
纏持 鉄五郎 吉五郎
梯子持 三次郎 千吉郎

五番組
の組



纏持

頭取 卯之助
菜松
桃太郎
吉五郎

梯子持

市五郎
兵次郎
甚之助
茂四郎
冰七
鉄五郎

六番組 は組

頭取 清八
同 吉郎吉

纏持 金次郎 三次郎 鐵蔵
階子持 安吉郎 繁蔵 甚太郎

七番組 廓組

頭取 源八
世話番 文次郎

纏持 千吉郎 総五郎
階子持 次郎吉 徳次郎

右之相違之儀證文ニ名前等之遺文を
古筆方ニ差上候而早速ニ御さ候とかく候ニ
張本帯上ニ早速ニ御返可申上候以上

[illegible]

[illegible]

[illegible]